

# 弥生時代の装身具

—出土品からみた弥生時代人の服飾生活—

(財)かながわ考古学財団 調査研究部

調査一課 渡辺 外

## はじめに

- ・弥生時代とは—海外では「農耕と牧畜の時代＝新石器時代」、弥生時代は農耕の本格化・生業化の時代。家畜を持つ文化とは断定出来ない。
- ・神奈川県域における弥生土器—九州・近畿から複数のルートを通じて弥生文化が関東地方にもたらされる。西日本の土器編年に対応して前期・中期・後期の三つの時期に区分し各地域で編年されている。

## 1. 服飾と装身

- ・服飾の意味—なぜ服を身に付けるのか
- ・装身具の出現と変化—装身具の機能と、その意味するものは時代によって変化する。

## 2. 出土品とその痕跡からみた弥生時代の衣服

- ・布の痕跡—布資料は極稀な状況下でしか遺存しない(錆化して付着する等)。弥生時代では圧痕が土器底面などに残る場合が多い。
- ・出土木製品にみる織機の様相
- ・編物と織物から裁縫された服へ—縄文時代の編布による服から弥生時代の織布の服へ

## 3. 出土品にみられる弥生時代人のすがた

- ・人面付土器と土偶形容器—縄文時代の土偶、古墳時代の人物埴輪から当時の人々の服飾の一端を窺い知ることが出来る。弥生時代の人面付土器や土偶形容器は当時の人々の姿を模したものと言えるか。
- ・銅鐸絵画—銅鐸に描かれた、丸頭と三角頭の人による狩猟と農耕の様子など
- ・その他

#### 4. 遺跡から出土した装身具

- ・衣服と装身具が組合わさることにより服飾が完成する
- ・装身具のあれこれー頭部装飾・耳飾り・首飾り・腕輪・腰飾り・履物<sup>はきもの</sup>
- ・頭部装飾ー縄文時代には鹿角<sup>ろっかく</sup>・木製の櫛<sup>くし</sup>や簪<sup>かんざし</sup>があり、結髪していたものと想定される。  
弥生時代にも豎櫛<sup>たてぐし</sup>・簪の類は存在するが、神奈川県内では不明。
- ・耳飾りー弥生時代の出土品では不明。縄文時代では石製耳飾りや耳栓<sup>じせん</sup>、古墳時代では耳環<sup>じかん</sup>  
・垂飾付耳飾<sup>すいしよくつきみみかざり</sup>など
- ・首飾りー縄文時代に牙玉<sup>きばたま</sup>・勾玉<sup>まがたま</sup>が出現。弥生時代には勾玉<sup>くだたま</sup>・管玉<sup>うすだま</sup>などによる首飾り  
が見られる。またガラス製品が出現し、古墳時代には更にヴァリエーションが増える。
- ・腕輪ー縄文時代に二枚貝製の腕輪が出現。弥生時代には南海産巻貝による貝輪の他に、  
銅製腕輪<sup>どうくしろ</sup>(銅釧)や他の金属で作られる例が認められる。
- ・指輪ー弥生時代から青銅製の小さな環状製品が出現し、指輪(銅環<sup>どうかん</sup>)と考えられている。
- ・腰飾りー縄文時代には、一部で腰飾りとみられる遺物が出土している。弥生時代には認められず、古墳時代には身分を示す帯飾りが出現する。
- ・履物ー縄文時代には出土例なし。土偶には履物を着用した表現がみられる。弥生時代では履物とは異なるが、木製品で田下駄<sup>たげた</sup>が出土している。古墳時代の沓<sup>くつ</sup>は華やかな装飾が加えられ、履いている人物の身分を示す装飾品としての性格を持つ場合が出てくる。

#### 引用・参考文献

- 田中国男1944『弥生式縄文式接触文化の研究』
- 神澤勇一ほか1969『神奈川県考古資料集成』1 弥生式土器 神奈川県立博物館
- 樋口隆康・佐原 眞ほか1974『古代史発掘5 大陸文化と青銅器』弥生時代ー2 講談社
- 赤星直忠1975『持田遺跡発掘調査報告書』逗子市文化財調査報告書第6集 同 市教育委員会
- 佐原 眞・金関 恕ほか1975『古代史発掘4 稲作の始まり』弥生時代ー1 講談社
- 坪井清足・田中 琢ほか1977『日本原始美術大系』4 鐔 劍 鏡 講談社
- 坪井清足・永峯光一・水野正好ほか1977『日本原始美術大系』3 土偶 埴輪 講談社
- 高倉洋彰1979「Ⅲ 原始・古代人の生活 1 衣生活」『日本考古学を学ぶ』(2)〈新版〉 有斐閣
- 上田 薫・岡本孝之1980『新羽大竹遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告17 神奈川県教育委員会
- 安藤文一1982『桜畑遺跡』同 遺跡発掘調査団
- 岡田威夫ほか1982『横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書 No.6 遺跡ーⅡ No.9 遺跡ーⅠ 1981年度』  
同 調査団
- 関 義則1983「須和田式土器の再検討」『埼玉県立博物館紀要』10 埼玉県立博物館

杉山博久1984「小田原市千代光海端遺跡」『西相模における古式土師器の研究(資料編)』小田原考古学会

永井正憲ほか1984『手広八反目遺跡発掘調査報告書』手広遺跡発掘調査団

中島 宏ほか1984『池守・池上 一般国道125号埋蔵文化財発掘調査報告書』埼玉県教育委員会

河野喜映ほか1985『山王山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告8 同 埋蔵文化財センター

高木宏和・土井義行1985『釜台町上星川遺跡』相武考古学研究所調査報告第1集 同 考古学研究所

伊東秀吉・杉山博久1986「根丸島遺跡」『秦野市史 別巻 考古編』秦野市

安藤文一1986『東田原中丸遺跡』秦野の文化財第22集 秦野市教育委員会・同 遺跡発掘調査団

石川日出志1987「9-12. 土偶形容器と顔面付土器」『弥生文化の研究』8 祭と墓と装い 雄山閣

栗山雄輝・上原正人ほか1996「第13章 上ノ入遺跡第4地点・第5地点」『南原B遺跡他』平塚市埋蔵文化財  
シリーズ29 平塚市遺跡調査会

中川律子ほか1996『角江遺跡Ⅱ 遺物編1(土器・土製品)』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第69集

田村良照ほか1997『関耕地遺跡発掘調査報告書』観福寺北発掘調査団

山本輝久・谷口 肇1999『池子遺跡群X No.1-A地点』かながわ考古学財団調査報告46 同 考古学財団

秋田かな子・宮原俊一ほか2000『王子ノ台遺跡』Ⅲ 弥生・古墳時代編 東海大学校地内遺跡調査団

亀田幸久2001『大塚古墳群内遺跡・塚原遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告244集 栃木県教育委員会・(財)  
とちぎ生涯学習文化財団

河合英夫ほか2001『成瀬第二地区遺跡群 下糟屋C地区第2・3地点 発掘調査報告書』同 遺跡調査会

宍戸信悟・加藤久美2001『原口遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告104 同 考古学財団

林原利明2001A「神奈川県産の青銅製品(1) -弥生・古墳時代前期集落関連遺跡出土品の集成-」『西相模  
考古』第10号 西相模考古学研究会

林原利明2001B「神奈川県産の弥生時代の青銅製品」『シンポジウム 弥生後期のヒトの移動 ～相模湾か  
ら広がる世界～ 資料集』西相模考古学研究会

林原利明2002「神奈川県産の青銅製品(2) -弥生・古墳時代前期集落関連遺跡出土品の追加資料、古墳前期  
までの墳墓出土品、前期古墳出土銅鏡の集成-」『西相模考古』第11号 西相模考古学研究会

村上吉正・井澤 純ほか2003『下寺尾西方A遺跡』かながわ考古学財団調査報告157 同 考古学財団

若林勝司・中島由紀子ほか2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3』同遺跡調査会

設楽博己2005「神奈川県中屋敷遺跡出土土偶形容器の年代」『駒澤考古』30号 駒澤大学考古学研究室

天野賢一ほか2006『高田南原遺跡(第Ⅱ地点)』かながわ考古学財団発掘調査報告199 同 考古学財団

近野正幸・畠中俊明2006『明神台遺跡・明神台北遺跡』かながわ考古学財団調査報告192 同 考古学財団

若林勝司・中島由紀子ほか2006『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書5』同遺跡調査会

滝澤 亮・小池 聡2007『千代南原遺跡第Ⅴ地点』株式会社盤古堂

若林勝司・川端清倫ほか2008『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書6』同遺跡調査会

渡辺 外ほか2008『三ツ俣遺跡Ⅴ(I地区)』かながわ考古学財団発掘調査報告218 同 考古学財団

鈴木素行2009『企画展示解説「再葬墓と人面付土器のふしぎ」』常陸大宮市歴史民俗博物館

---

かながわ考古学財団入門講座 第6回ようこそ考古学

シリーズ アクセサリー3

## 弥生時代の装身具

－出土品からみた弥生時代人の服飾生活－

発行日 2010. 3. 5

発行 財団法人 かながわ考古学財団

〒 232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162

e-mail : kaf@kaf.or.jp

---

挿図貼り込み原稿

土器底面に残された圧痕

中屋敷遺跡出土 土偶形容器 前 後

出土した織機の部材

銅鐸に描かれた弥生時代人

勾玉 ガラス玉 管玉 銅釧 銅環 神奈川県内における弥生時代の装身具の例